

青年期の人物描画法テストにおける不安の指標について

明治鍼灸大学 人文・社会学教室

多田 建治

要旨: 123名の大学生, 専門学校生を被験者として, MASと人物描画法テスト(DAP)を施行した。そしてMASにおける高不安群(HA群)と低不安群(LA群)をそれぞれ31名ずつ選び出し, 特性不安がDAPにおいてどのように反映されるかを調べた。DAPの133指標についてHA群とLA群を比較した結果, とぎれた線と, 小さい足と, ボタンを始めとする服装の詳細描出の欠如の3指標が不安の指標として有意に見出された。従来不安の指標とされている陰影づけや省略は両群で差がみられなかった。臨床事例の中では, 本研究の結果を支持する幾つかの事例が見出され, 特に不登校の女子学生の人物画において小さい足がよく見出されている。また, 世界的に有名な画家の絵においては, ムンク, セザンヌ, ルドンなどにおいて本研究の結果を支持する人物画が多少みられる。しかしながら, この点については調査が不充分である。

Anxiety Indices in the Draw-A-Person Test in Adolescence

TADA Kenji

Department of the Humanities and Social Sciences, Meiji College of Oriental Medicine

Summary: Manifest Anxiety Scale and Draw-A-Person Test were administered to 123 students of a university and a professional school. Each 31 persons of high-anxiety(HA) and low-anxiety(LA) were selected and grouped based on MAS' Anxiety scores. And it was investigated what indices in the human figure drawings were regarded as the anxiety indices. 133 indices of them were compared between the two groups. And, as the results of it, three indices: line discontinuity, small feet, and detail loss in the clothes (especially loss of buttons) were significantly found. Some clinical case reports supported the results of this study and small feet were well found in the human figure drawings of female school refusal students. Moreover, human figures in the pictures of world-famous painters such as Munch, Cézanne and Redon supported a little the results of this study, though it was insufficient.

Key Words: 人物描画法テスト Draw-a-person test, DPAの不安の指標 Anxiety indices in the DAP, MAS顕在性不安尺度 Manifest Anxiety Scale.

I 緒 言

人物描画法テスト (Draw-A-Person Test, 以下DAPと略記する) は, 投影法テストの一つとして, 人格の諸側面を測る便利なテストである。その場合, 測定されるべき人格の一側面として不安水準 (不安が高いか低い) が考えられる。そしてDAPにおける不安を表わす指標の研究は, 従来さまざまな形で行われてきている。Sims, J. et al. (1983)¹⁾ の論文は, 1982年までのDAPの不安の指標に関する諸研究をまとめ概観したものであるが, その中の幾つかの研究論文はDAPの不安指標について肯定的な結果を得るのに失敗していると述べている。

それ以前の詳細な研究報告として, Handler, L. & Reyher, J. (1965)²⁾ の論文は, 21のDAPの不安指標について, 51の研究論文の結果をくわしく調べたものである。その結果, 伝統的な臨床的解釈と一致した結果が147, 反対の結果が30, 有意差のないものが78というデータが得られている。21の不安の指標のうち, サイズの増減, 濃い線 (heavy line), 線の筆圧の増加, 省略, 詳細描出の欠如, 歪み, 頭部の単純化, 胴体の単純化の8つの指標では期待された方向の結果が得られているが, 陰影づけ (shading), 頭髪の陰影づけ, 抹消および描き直し, 強調のための線 (emphasis line), 強化された (くり返された) 線の5つの指標では期待された方向の結果は得られなかった。

Handler, L. & Reyher, J. はこれらの期待に反した結果を生じた指標についての説明として, これらの指標は, 描画というストレス事態に対する被験者の特徴的なアプローチのし方を反映していると述べている。描画作業をはじめ, 作業場 (勤務の場) でよくみられるストレス状況, 不安を生ぜしめる状況では, 多くの被験者は最少の努力で仕事を出来るだけ手早く片づけてしまいたい欲求が生じるであろう。描画テスト場面はそれ自体ストレスに満ちた場面であるので, テスト場面から逃避したい反応が生じ易く, それゆえ, 陰影づけ, 線の強化, 抹消および描き直しなどの時

間をよけいに要する指標は減少するものと説明している。またこれらの指標がみられることは, 不安場面に耐えていこうとする, 好ましい "自我の強さ" を表わすものと受けとめられると述べている。つまりこれらの指標は, 内部からの不安でなく, 外部からのストレスに対する感受性を表わすものだと述べている。

DAPに関する代表的な解釈の手引き書である。Machover, K. (1949)³⁾ や, Koppitz, E. M. (1968)⁴⁾ の本の中では不安の指標としては, 陰影づけ (あるいは塗りつぶし) ぐらいしかとりあげられていなくて, 人格の不安水準に関しては詳しく述べられていない。

DAPの不安の指標をとりあげた幾つかの論文の中で注目すべきものとしては, Handler, L. (1967)⁵⁾ の20の不安指標があげられる。実際, Sims, J. et al. は幾つかのDAPの不安のスコアリングの中でとりあげるべきものは, このHandlerのものぐらいであると述べている。

それらの20の不安指標を次にあげる。

- (1) 陰影づけ (Shading)
- (2) 頭髪の陰影づけ (Hair Shading)
- (3) 抹消および描き直し (Erasure)
- (4) 強化された線 (Reinforcement)
- (5) うすい線と濃い線 (Light Line & Heavy Line)
- (6) 配置 (Placement)
- (7) 省略 (Omission)
- (8) 小さすぎる, または大きすぎるサイズ (Small Size & Large Size)
- (9) 小さすぎる頭部と大きすぎる頭部 (Small Head Size & Large Head Size)
- (10) 頭部 : 胴体の比率 (Head : Body Ratio)
- (11) 透視像 (Transparency)
- (12) 身体と衣服などを分ける線の欠如 (Delineation Line Absence)
- (13) 垂直方向の傾き (Vertical Imbalance)
- (14) 強調のための線 (Emphasis Line)
- (15) 不連続な線 (Line Discontinuity)
- (16) 歪み, 奇妙な形 (Distortion)

- (17) 頭部の単純化 (Head Simplification)
- (18) 胴体の単純化 (Body Simplification)
- (19) 細部描出の欠如 (Detail Loss)
- (20) 弱すぎる筆圧, または強すぎる筆圧 (Light

Line Pressure & Heavy Line Pressure) Handler のスコアリングでは, これらの20の不安指標について, スコア0～スコア3の4ポイントで客観的に評定して, 最終的な不安スコアが算出されるようになっている。しかし不安という把握し難いものを対象としているだけに, 被験者やテスト状況など様々な要因を考慮して, 伝統的な臨床的解釈に応じてスコアリングすべきである。

DAPの不安指標を研究する場合に, 一つには不安な状況, つまりストレス状況をつくりだして, そこで描かれた描画と, ストレスのない状況で描かれた描画とを比較する方法があり, もう一つには, 質問紙法などの不安尺度を用いて, 不安の高い群と不安の低い群の描画を比較する方法がある。

本研究では, MAS (Manifest Anxiety Scale) という不安を測定する最も代表的な質問紙法テストを用いた。MASが心理テストとして, 信頼性や妥当性の高い用いやすい道具であることは経験的によく知られている。

MASを用いたDAPの研究について概観すると, Hoyt, T. E. & Baron, M. R. (1959)⁶⁾ は, MASの高得点と低得点の60名の女性患者の描いた同性の描画を比較したところ, 左上方向の配置 (Placement) と, 小さいサイズ (Small Size) の2つの指標で両群に差がみられた。また彼等の行った123名の男性患者を被験者とした追試に於ても, 頭の相対的大きさ (Head: Body Ratio) の指標で両群に差がみられた。

一方, Craddick, R. A. et al. (1962)⁷⁾ の研究では, MASの得点とDAPの陰影づけとの間に有意な相関を見出せなかった。また, Lackmann, F. M. et al. (1961)⁸⁾ の研究では, 臨床家によるDAPの主観的評価による不安の順位と, MASの得点による順位との間に逆の関係が見出された。そしてMASで測定される不安と,

DAPなどの投影法テストで測定される不安との間に統一的な不安の見解がないものと述べている。

本研究では, テスト状況における外部的な不安の問題はアプローチが難しいので, ひとまず考慮せずに, 内部的な特性不安を測るMASを用いて, 被験者集団から高不安群と低不安群の者を選び出し, その両群のDAPを比較することとした。今までのDAPの不安指標はもちろん含めて, DAP解釈の時に手がかりとなる全ゆる指標について両群の間で比較を行い, 今まで見出された指標が妥当かどうか, また, 新たに指標が見出されるかどうかを検討した。そしてまた, 本研究で見出された特性不安 (内部的な不安) と関連するDAPの指標について, それらが, 臨床的な事例の中や, 世界的に有名な画家の人物像の絵画の中に表われているかどうかを調べた。そして表われている場合には, 事例の個人史, 画家の個人史や病蹟学との関連を調べ検討することとした。

II 方 法

被験者は大学生, 専門学校生123名, 年齢18～25歳, 男子101名, 女子22名である。DAPはマッコーパーの方法で教示した。DAPとMASの実施間隔は2週間である。結果の整理は, MASでは, 全被験者のA得点 (不安得点) を順序配列して四分領域を求め, 第三四分位数より高いA得点の者を高不安群 (HA群), 第一四分位数より低いA得点の者を低不安群 (LA群) とした。A得点23点以上の者がHA群, A得点11点以下の者がLA群となり, それぞれ31名ずつが概当した。これはMASの使用手引⁹⁾に載っている男子女子大学生の5段階評価の, I, II段階がHA群に相当し, IV段階の低い方半分とV段階がLA群に相当するので, 非常に妥当な群別化である。

DAPについては, Handler, L. (1967), Handler, L. & Reyher, J. (1965) の論文でとりあげているDAPの不安の指標及びDAPについて出版されている手引き書の類の本, マッコーパーの「人物画への性格投影」³⁾, コピッツの

「子どもの人物画」⁴⁾「臨床描画研究Ⅰ」¹⁰⁾の12～49頁、高橋雅春の「描画テスト入門……HTPテスト」¹¹⁾などの本の中から、細かい分析の指標となるものを出来るだけ全体を網羅するようにとりあげ、また現実の被験者の描画にみられた特徴をできるだけとりあげて、合計133項目の指標について、HA群とLA群の描画を分析、比較した。それら133項目の分析の指標は表1に示した。もちろん62名の被験者に出現頻度が0である指標については省いてある。

Ⅲ 結果と考察

1) HA群、LA群それぞれ31名ずつのDAPについて133項目の分析の指標についてそれぞれ該当者数を求め比較した。その結果、被験者は青年後期の健常な者であり、知的能力も普通以上であるので、DAPの発達の側面については無視してもよく、それゆえに多くの項目についてそれほど顕著な差はみられなかった。133項目の指標のうち、両群の該当者数の差が2以上（数の多いものでは3以上）の51指標についての結果を表2に示してある。

表2より、統計的有意差のある項目をみると、高不安群（HA群）では、とぎれた線（Line Discontinuity）と、小さい足と、ボタンをはじめ、バックル、ポケット、ネクタイなどの服装の詳細描出に欠ける特徴がみられた。また、スケッチ風の軽いタッチで描いていることも、かなりの差がみられた。その他、統計的に有意ではないが、筆圧が弱い、人物像のサイズが小さい、正面向きよりも後向きなどがより多く描かれていて、腕を身体の後隠したり、ポケットに入れたりするのも比較的多かった。さらに、短い腕や、折れ曲った腕、小さい足と関連して細い脚や短い脚なども比較的に多かった。また、大地線を描いている者や、性差の表現の乏しい者も少し多くみられた。

一方、低不安群（LA群）では、サイズが大きいものであり、用紙から下部がはみ出して脚部が切断された人物像を描いた者が3名いた。また、シン

メトリな描き方、頭部が比較的大きい、形の眉、きつい表情なども比較的多くみられた。そして、足の指の強調など細部描出の傾向もみられた。

2) 従来最も不安の指標だとされている、陰影づけ（Shading）や、抹消および描き直し（Erasure）については両群で差がみられなかった。DAPは集団法で行なったので、描き直しについては結果の描画をあとから見ての判断であり、その点は方法的に問題がある。陰影づけについては陰影のついた大地線（ground line）を描いている割合が高不安群（HA群）で少し高めであるが、これは大地線を描くことで不安定感ないし不安感を補償していると解釈できる。またHA群での、細い脚、短い脚や、小さい足が多いことなどを総合してみると、HA群は自立性（あるいは自律性）や、パーソナリティーの安定性に欠ける面があると解釈できる。

また腕を背後に隠したり、ポケットに入れたり、後向きの像が多いなど、社会性や協調性のなさが考えられる。さらに、サイズの小さいことから自信のなさや自我の縮小感、筆圧の弱いこと、とぎれた線の多いことから、自我の弱さ、性差の表現の少ないことから、自我の未熟さなど、全般的に自我機能の弱さが多少伺える。

これらパーソナリティーの不安定さや社会性のなさ、自我の弱さなどは、直接不安そのものを表わしているわけではないが、MASで測定される顕在性の不安とこれらのパーソナリティーの要素とは多に関連すると考えられる。言い換えれば、MASでの不安がDAPでのこういう形で表現されていると考えてもよい。

一方、ボタン、バックル、ポケット、ネクタイなどの服装の詳細描出の欠如は、Handlerの不安の高さの指標がこの点に表われている。この詳細描出が欠けている結果は、Handlerの解釈にあるように、不安の高い者は出来るだけ早く描画を済ませたい欲求により、時間をかけて服装の詳細を描くことを避けていると受けとれるのである。

表1 高不安群と低不安群の比較で用いたDAPの指標133項目

- ◇配置 1. 中央(身体像の中央点と用紙の中央点との差が2cm以内) 2. 上寄り 3. 下寄り
4. 左寄り 5. 左上寄り
- ◇サイズ 6. 大きい(用紙の面積の1/2以上) 7. 小さい
- ◇筆圧 8. 強い 9. 弱い 10. 圧力の不均衡(濃淡)
- ◇11. スケッチ風 ◇12. 線のとぎれ ◇13. 抹消, 描き直し
- ◇姿勢 14. 直立 15. しゃがむ 16. 走る, 歩く 17. その他の動作
18. 正面向き 19. 横向き 20. 後ろ向き 21. 斜め向き
- ◇陰影づけ 22. 全体 23. 頭髪のみ 24. 顔のみ 25. 胸部のみ 26. 衣服のみ
27. 脚部のみ 28. 足部のみ 29. 地面のみ
- ◇垂直方向のバランス 30. 中央線とシンメトリー 31. 中央に垂直線が強調
32. 大地線(Ground Line) 33. シンメトリーな人物像
- ◇男女像の比較 34. 同性像を先に描く 35. 異性像を先に描く 36. 異性像が同性像より大
37. 性差の表現が乏しい
- ◇38. 透視像 ◇39. 全裸の人物像 ◇40. 全体のバランス, 歪み
- ◇41. 詳細すぎる ◇単純化 42. 頭の単純化 ◇風景の描写 43. 雲の描写
- ◇頭 44. 大きい頭 45. 大きすぎる頭(5頭身まで) 46. 小さすぎる頭(9頭身から)
- ◇顔 47. 顔の省略 48. 顔の塗りつぶし 49. 表情がきつい 50. 表情がぼんやりしている
- ◇口 51. 口が大きい, 強調 52. 口が小さい 53. 一直線の口 54. への字形の口
55. U形の口 56. 開いた口 57. 歯の表現 58. 口の省略 59. 唇の強調
- ◇顎 60. V字形の突出した顎 61. 角ばった顎 62. 顎の強調
- ◇眼 63. 小さい眼 64. 大きい眼 65. 直線ようの細い眼 66. 眼の省略
- ◇瞳 67. 瞳の省略 68. 中央に寄る(寄り目) 69. 斜視 70. 眼鏡をかけている
- ◇眉 71. 太い眉 72. 細い眉 73. 長い眉 74. へり形(ノコギリ)の眉 75. 眉の省略
- ◇耳 76. 耳の強調
- ◇鼻 77. 大きい鼻 78. 小さい鼻 79. 鼻の省略 80. し字形の鼻 81. へり形(ノコギリ)の鼻 82. I形の鼻
- ◇頭髪 83. 頭髪の省略 84. 性にふさわしくない頭髪
- ◇頸部 85. 細い頸部 86. 太い頸部 87. 喉ぼとけの強調
- ◇腕, 手, 指 88. 長い腕 89. 短い腕 90. 太い腕 91. 折れ曲がった腕 92. 上部から横に出ている腕
93. 胴体に密着した腕 94. 腕の切断 95. 後ろに隠した腕, 手(片方でも) 96. ポケットにいらした手(腕)
97. 大きすぎる手 98. 小さすぎる手 99. 握りこぶし 100. 手の省略 101. 奇妙な手(指)
102. 指のない手 103. 爪の描写 104. 尖った爪
- ◇脚, 足 105. 細い脚 106. 太い脚 107. 長い脚 108. 短い脚 109. 脚の省略 110. 脚の関節強調
111. 脚を開いている 112. びたっと閉じた脚 113. 用紙の下部で脚が切断
114. 脚を上げていて, 両足が地についていない 115. 小さい足 116. 足の省略 117. 足の指の強調
- ◇胴体 118. 細い胴体 119. 太い胴体
- ◇肩 120. いかった肩 121. なで肩
- ◇腰 122. 腰の強調 ◇尻 123. 尻の強調
- ◇乳房 124. 乳房の強調
- ◇衣服 125. 関心が強く衣服を強調 126. ボタン 127. バックル 128. ポケット 129. ネクタイ 130. 帽子
131. 靴 132. 靴下 133. その他身につけるもの, 持物など

表2 高不安群(HA群)と低不安群(LA群)でのDAPの指標の比較

()の中は%の数値

	高不安群	低不安群	X ²	P
人 数	31	31		
女子の人数	9(29)	7(23)	0.34	n.s.
線のとぎれ	12(39)	3(10)	5.63	p<.05
スケッチ風	8(26)	2(6)	2.98	p<.10
筆圧 弱い	9(29)	3(10)	2.58	
サイズ 大	2(6)	7(23)	2.08	
サイズ 小	6(19)	3(10)	0.52	
正面向き	24(77)	27(87)	0.44	
後ろ向き	3(10)	0(0)	1.40	
横、後ろ、斜め向き	7(23)	4(13)	0.44	
中央線とシンメトリー	1(3)	3(10)	0.27	
シンメトリーな人物像	3(10)	6(19)	0.52	
大地線 ground line	4(13)	1(13)	0.87	
バランスの悪さ、歪み	3(10)	5(16)	0.14	
異性像が同性像より大	1(3)	3(10)	0.27	
性差の表現が乏しい	5(16)	3(10)	0.52	
大きな頭	2(6)	4(13)	0.18	
大きすぎる頭(胴体比)	0(0)	2(6)	0.52	
小さすぎる頭(胴体比)	3(10)	5(16)	0.14	
唇を強調	3(10)	1(3)	0.27	
小さい口	9(29)	6(19)	0.79	
角ばった顎	0(0)	3(10)	1.40	
眼鏡	3(10)	1(3)	0.27	
細い眉	5(16)	8(26)	0.39	
長い眉	4(13)	2(6)	0.18	
＼／ 形の眉	1(3)	3(10)	0.27	
表情がきつい	1(3)	3(10)	0.27	

	高不安群	低不安群	X ²	P
鼻の省略	1(3)	3(10)	0.27	
☞ 形の鼻	2(6)	0(0)	0.52	
髪の毛なし	3(10)	1(3)	0.27	
性に相応しくない頭髪	2(6)	4(13)	0.18	
頭髪の塗りつぶし	17(55)	14(45)	0.58	
細い頸部	7(23)	5(16)	0.10	
短い腕	3(10)	1(3)	0.27	
折れ曲がった腕	6(19)	3(10)	0.52	
腕を背後に隠す	5(16)	3(10)	0.14	
(+ポケットに入れる、片方隠す)	10(32)	5(16)	1.41	
大きすぎる手	0(0)	2(6)	0.52	
細い脚	7(23)	4(13)	0.44	
太い脚	0(0)	2(6)	0.52	
短い脚	4(13)	2(6)	0.18	
両脚を開いている	3(10)	1(3)	0.27	
小さい足	14(45)	4(13)	6.34	p<.05
脚が用紙下部で切断	1(3)	3(10)	0.27	
足の省略	0(0)	3(10)	1.40	
足の指の強調	1(3)	4(13)	0.87	
ボタン描出	4(13)	13(42)	5.19	p<.05
バックル、ベルト描出	5(16)	11(35)	2.11	
ポケット描出	5(16)	10(32)	1.41	
ネクタイ描出	1(3)	3(10)	0.27	
帽子を描く	0(0)	1(3)	0.00	
靴を描く	16(52)	14(45)	0.26	
ボタン、バックル、ポケット、ネクタイの計	10(32)	19(61)	5.25	p<.05

3) 他方、LA群では、サイズが大きめであり、用紙から人物像がはみ出して切断されるなど、自我肥大の傾向がみられる。この用紙の下方での切断された像については、高橋が「心の中に衝動性が強く存在しているがそれを強く抑制してパーソナリティーの統合を維持しようとしていることを表わす。とくにこれが人物像で生じるときは、

人間関係における衝動性や敵意が強く、しかもそれを抑制している場合や、自主的に独立した行動を求めながらも外界からの力によって妨げられている感じを表すことが多い」〔高橋(1980)¹¹⁾ 33頁〕と述べている。攻撃性を示す足の指の強調や、きつい表情がLA群で比較的に多くみられたことを考え合わせると、一見不安のない適応的な

青年達の、敵意を強く抱きながら、それをかろうじて抑制してパーソナリティーの安定を保っているように努力している姿がよく表れていると思う。

たゞ、LA群で足の省略した者が3名いたが、足の省略は、暗くおちこんだ、落胆した、逃避的傾向を示すものと解釈されるので、これはLA群の低い不安と相容れない意外な結果であった。この3名の描画は、足の省略のみでなく、全体がぼんやりと描かれ、手も省略されていたり、顔の表情も明らかでなかったりして、全体的に見て自我の弱さがめだち、他のLA群の描画にみられる、明確で、しっかりした表現とは明らかに異なった印象をうけるものである。この3名については、DAPの評価から言えば、決して精神的に健康な安定した感じはうけない。この3名のうち1名はMASでの?の答が非常に多く低不安群といえない面もある。他の2名については、MASでの解答が歪曲されていると考えるか、MASで測定できないパーソナリティーの不安感がもっと深層にあるものとするか、いずれにしてもLA群としては例外的に考えられる。

4) 緒言で述べた Handler の20の不安指標の結果について調べてみる。陰影(Shading)と、省略(Omission)については表3に示したように、HA群とLA群で全く差がみられない結果であった。両群に有意差がはっきりみられたのは、とぎれた線(Line Discontinuity)であった。有意ではないがスケッチ風な線(Light Line)も差がみられた。その他、筆圧の弱さ(Line Pressure)と、サイズが大きすぎるか小さすぎる(Size Increase or Decrease)の2つの指標も多少差がみられた。またHA群の方がLA群より、服装の詳細描出に欠ける点は、HA群で足の指を描く者が少なかったことや、性差の表現が乏しいことなど総合的に見て、細部描出の欠如の指標(Detail Loss)がみられると考えてよいだろう。

5) DAPの不安の指標について考える場合、被験者が子供(幼児、児童)の場合と、青年期以降の場合とでは、はっきりと区別して考えるべき

表3 高不安群と低不安群における陰影づけと省略の指標の比較

	高不安群	低不安群
陰影づけ 全体	5	4
頭髮のみ	17	14
顔のみ	0	1
胸部のみ	0	1
衣服のみ	8	7
脚のみ	0	1
足のみ	0	3
地面のみ	4	1
省 略 顔	1	1
眉	2	1
眼	2	1
瞳	1	1
鼻	1	3
口	3	2
手	1	1

である。子供の場合は、Silverstein, A. B. (1966)¹²⁾も述べているように、不安が知的機能に影響を及ぼし、情緒的な側面と知的な発達の側面とが混然となり、不安の指標そのものをとりあげることが非常に難しくなる。本研究の被験者は青年後期の健常な者であるので、こうした点については考慮する必要はないが、対象が青年期以降の場合にはDAPの解釈においていつも問題とされる artistic quality (美的表現、絵のうまさの要因)について考慮せねばならない。とくに不安の指標の一つにあげられているスケッチ風な線(Light Line)は本研究の結果でも多少両群に差が見出されたが、美術の教育を受けている人達や、絵を描くのが好きで、デッサンの練習をしたりするなど絵画の趣味をもっている人達は、どうしても上手に描こうとしてデッサンの表現をしてしまう傾向がでてくるのではなからうかと思える。いちおう指示では実際の人物をスケッチしてはならないと言っているが、実際に描く時には、

つい美的表現の要因が出現するかもしれない。そしてこれを防ぐことは不可能である。

同様に陰影づけ(Shading)や、強調のための線(Emphasis Line)も美的表現の一要因として考えられるだろう。陰影づけは不安を表わすまず第一の指標であると、DAPに関する古典的な解釈の本はすべてそう認めている。この解釈は、投影法テストの最も代表的なものであるロールシャッハ・テストに於て、Shading 反応(濃淡が通景、拡散、材質を表わす)は不安とおおいに関係があるとされているので、そういった所に由来するとも考えられる。Handler と Reyher の不安の指標についての論文の中では、DAPの陰影づけが不安を表わすという解釈に、否定的な結論であった。そして本研究の結果もこれと一致していて、陰影づけはMASの示す不安と殆んど関係しないという結果であった。

しかしながら、本研究の結果からDAPの古典的な名著に反対して、陰影づけが不安とは関係がないと断言するのは早急で危険でさえある。本研究とは異った施行方法や、異った被験者で同じような結果が示されなければ断定的には言えない。MASで測定される不安は、把握しがたい不安の一側面でしかないし、心理テストで不安のすべてをとらえることも不可能である。また、陰影づけの分析も、全体にわたった陰影づけと、部分的な陰影づけ、美的表現としての陰影づけと、陰影づけをする必要のない場所での陰影づけなど、もっと緻密な分析を今後行う必要があると思う。

6) 本研究の結果から不安を表わすDAPの指標として、とぎれた線(Line Discontinuity)と、小さい足と、ボタンをはじめ服装における詳細描出の欠如の3つが見出された。これら3つの指標を中心にその他にも有意ではないが不安に多少関係する指標が幾つか見出された。DAPのこれらの指標が実際の臨床ケース報告の中での不安な状態と関連しているかどうかを調べてみた。

まず、マッコバーの名著「人物画への性格投影」³⁾の119頁に載っている、急性の青年期障害の男子16才の患者の絵は、図1に示すように小さ

い足と、とぎれた線、服装の詳細描出の欠如の3つの指標とも当てはまるケースである。その他に筆圧の弱さ、横向きの男性像、手が非常に小さく男性像の場合は不明瞭で省略されたかのようなものである。マッコバーもこのケースのDAPの説明で「不安感、劣等感、さらに恐れが、薄い切れぎれのぎこちない線に現われている……女性像の足の小さいことにもみられる」と述べている。このマッコバーのあげたケースは、養母たちが彼を精神病扱いすることに対して立腹して、度重なる逃走、また自動車盗みのため病院へ回されてきたもので、彼の唯一の望みは8年間も引き離されている実母のもとに帰りたいということであり、継父、継母、養母という複雑な家庭背景の中で心のより所がなく、心理的に非常に不安な状況であり、かつ社会的感情的に未熟なために反社会的になっているケースである。このケースは本研究で見出された不安の指標を実証する代表的なものである。

他に年刊誌「芸術療法」には絵画をとり入れたケースの発表がかなり見られるが、分裂病患者の絵画療法のケースが比較的多い。また人物画のみをとり扱ったものではなく、HTPテスト、家族画、自由画の中での人物像としてみられることが多い。そしてクレヨンやクレパスを使用した色彩つきの描画が結構多く、その場合には、鉛筆による施行法のDAPと同じ様にとり扱えないことが多い。例えば、とぎれた線は塗りつぶしによりわからなくなったり、陰影づけも同様である。

その中で大森ら(1984)¹³⁾による「多面的HTP法における不登校症例の臨床経験」という論文の中で、症例2の14才の女子中学生の人物像は、図2に示したように小さい足が特徴的にみられる。このケースの主訴は、食欲不振、悪心などで、診断としてヒステリーと不登校傾向がみられる。この絵を描いた頃は、通学の問題、受験のこと、また治療の第一回目で不安の高い状況であることが推測される。しかしながら、小さい足の他は、短い脚、手を背後に隠している、小さい目などがDAPの特徴としてみられるぐらいで、とぎ

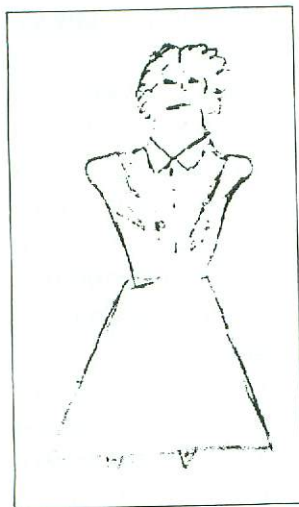


図1 急性の青年期障害男子16才のDAP

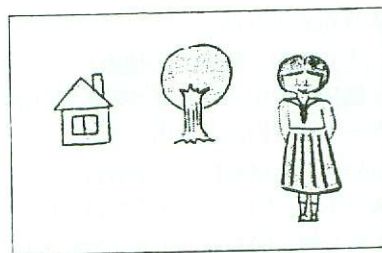
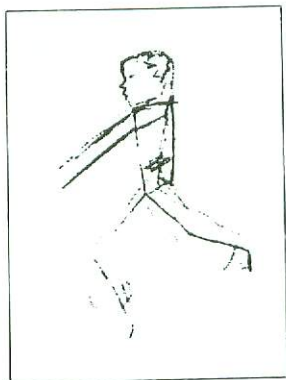


図2 不登校女子14才のDAP



図3 不登校被害関係念慮の
女子17才のDAP

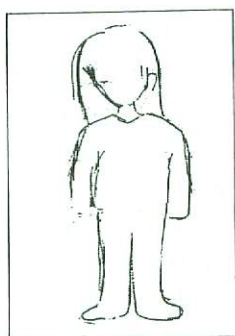


図4 不登校の女子16才のDAP

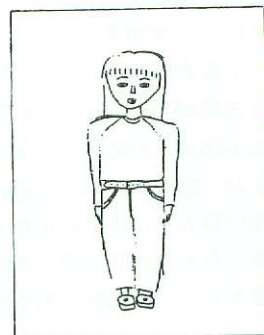


図5 不登校女子14才のDAP

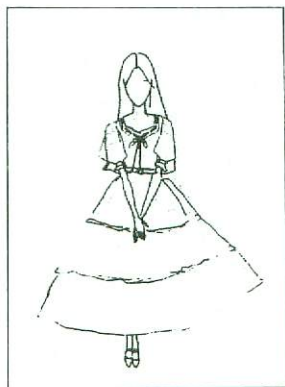


図6 自閉傾向をもつてんかん女子23才のDAP

れた線や、スケッチ風の線はなく、服装はきちんと描かれているので、本研究で見出された3つの指標のうち1つしか該当しないケースといえよう。

また、最近単行本として出版されている臨床ケースを報告したもの、例えば、「臨床心理ケース研究」¹⁴⁾ 1～5巻などを調べてみたが該当するものは殆んどなかった。

ところが、藤土圭三他編¹⁵⁾「心理検査の基礎と臨床」の中では、3つの不安の指標に該当するケースが4例ほど見出された。図3、図4、図5はいずれも14～17才の不登校の女子のケースのものであり、図3では小さい足、図4では一部にとぎれた線、図5では小さい足が表現されている。また図6は自閉的傾向をもったてんかんの23才の女性のケースの描画であるが、DAPでは非常に小さい足が特徴的にみられる。これらのケースでは、いずれもテスターによる心理検査のレポート報告の文章中に、「不安、不安定感」という言葉が見出されるので、この4つのケースでは本研究での結果が一部実証されたと言えよう。また、臨床ケースを全般的にみると、不登校の女性のDAPに小さい足がよく描かれていると言える。たゞDAPに関する臨床ケースについては見落としている文献もあるだろうことを付記しておく。

7) 次に世界美術全集(集英社版)¹⁶⁾などをもとにして、世界的に有名な画家の人物像を描いた絵画を本研究での分析と同じように調べて、本研究で見出された3つの指標がどんな画家の絵においてみられるかを調べた。それらの指標の見出された画家のパーソナリティーが不安感の強いものかどうかを、画家の個人史や伝記などを参考にして調べた。

とぎれた線(Line Discontinuity)については、油絵、パステル画、水彩画など用いた手段によって幾分描き方も特徴づけられてくるので、DAPの鉛筆によるものと同一に考えるわけにはいかない。また鉛筆を用いたデッサンの場合には美的表現としてとぎれた線は出現し易い。そこで

この指標については、人物像と背景との境界がはっきりした1本の線で明瞭に区別されているのではなく、何本かのとぎれた線によって不明瞭に境界づけられている時に該当するものとした。

このとぎれた線については、ムンク、セザンヌで割合多くみられ、ボナールや、ルノワールなどでも描き方の特徴としてみられる。また、小さい足については、ルドン、ゴヤに少しその傾向がみられ、逆にゴーギャンは大きな足を描く傾向がある。そして、服装の詳細描出の欠如については、ムンク、ルドンなどで少しその傾向がみられる。ルドンの場合は描くテーマにもよるのだが裸形やヴェール姿が多い、またムンクではネクタイやボタン等、はっきりと描かれた作品もかなりある。

アングル、レンブラントをはじめ、古典的な写実的な画家や、ミレー、クールベ、マネ、ドガ等の人物画は足の大きさは適切であり、明確な境界線、服装は詳細に描かれていて、3つの不安の指標のうちどれも該当しない。

不安の画家と言われているムンクは、とぎれた線、服装の詳細描出の欠如と、本研究で見出された2指標が何割かの作品の中にみられ、本研究の結果を支持する具体例ともいえる。ムンクの絵は、総じて、黒っぽい暗い色彩、不安を喚起する背景の落ちつかない線の描写などを特徴とし、陰気でメランコリックな絵が多い。現代人の人間性の中の暗い影の部分をやさしく表現して、見る人の多くに共感をよびおこすものでもあるが、彼の人生は、幼少時に母を亡くし、父の宗教的に不安の強い性格、姉の死、友人の自殺、神経衰弱による入院など、暗い不安な出来事に満ちている。女性との否定的な関係については、「母親の否定的イメージ、母親が彼を拒絶し、見棄て、愛への憧れをくじき、欺かれたと感じる彼の深層……」とディグビー、G. W. (Hodin, J. P.¹⁷⁾ 104頁より引用)は述べている。

精神分析の立場から不安を分類すると、一つには母親的なもの(愛情を与えてくれる依存している存在)から見捨てられる不安(対象不安、分離不安、自我の不安)があり、他方には本能的衝動

参考資料 { () 中の数字は引用した文献を示す }



ムンク：柱時計とベッドの間にて (17)
洋服を描いているがポケットもネクタイも
ボタンもベルトも描いていない



ムンク：金持ち (17)
とぎれた線がみられる



セザンヌ：愛の争い (19)
とぎれた線が特徴的



ルドン：聖セバスチャン (22)
小さい足と服装の詳細欠如がみられる



ゴーギャン：格闘する子供たち (25)
非常に多きな足が特徴



ゴヤ：聖女フスタと聖女フィーナの習作 (16)
小さい足が特徴

の高まりによる不安（イドの不安）と、それに対して超自我（父親的、社会的なもの）から罰せられはしないかという不安（超自我不安）があると Polansky, N. A. (1982)¹⁸⁾ は述べている。その他、現実の対象、状況からおびやかされる現実的状況の不安（現実不安）もある。そしてムンクの場合は、これらの不安のうちの分離不安が彼の個人史から明確に読みとれるのである。

3つの指標のうちのとぎれた線の指標がみられるセザンヌの絵¹⁹⁾は、論理的強迫的ともいえる計算された構図が特徴であり、落ちついた色彩の使用により、どちらかといえば不安とは無関係なようにも見える。しかしセザンヌのパーソナリティーの特徴は強力な父親コンプレックスの存在であることがその個人史から読みとれる²⁰⁾。抑圧された本能的性衝動や攻撃的衝動の出現に対する超自我からの罰を恐れる不安、つまり超自我不安の顕著なタイプである。セザンヌといえぱりんごなどの静物画や、サント・ヴィクトワール山などの風景画で有名であるが、一方では、強姦の絵、骸骨の絵、水浴画などの作品²¹⁾もかなりあり、抑圧された衝動を絵画の中で表現し昇華しているとも考えられる。

ルノワールやボナールは風貌からしても温和な感じであり、生育史からみても安定したパーソナリティーの画家である。これら2名の画家の場合、とぎれた線といっても、ムンクやセザンヌと異なり、かなり技術的な印象をうける。たゞ背景との境界は不明瞭な作品がかなりみられるので、多少自我の弱い側面があるとみなしてもよいだろう。しかしこの両者に対して現時点では何も言えない。

3つの指標のうち、小さい足と服装の詳細描出の欠如の2つの指標がわずかな傾向としてみられるルドン²²⁾は、どちらかという安定したパーソナリティーの人物だと言うことが出来るが、生後すぐに実母から分離させられ、里子に出されたという画家の人生の初期の暗い側面、つまり分離不安の存在が生育史から心理的特徴としてあげられる²³⁾。しかしルドンは、長い人生の年月をか

けてこの不安から脱出し幸福な家庭生活に恵まれている。

一方、小さい足を描く傾向にあるゴヤ²⁴⁾は、貧困ではあるが両親の愛情に恵まれ、生育史的な不安の特徴はないし、安定した野心に満ちたパーソナリティーとみなされるので、ゴヤに関しては本研究の結果と一致しない例である。

また大きな足の人物像を描くゴーギャン²⁵⁾も人生の初期に生地パリから南米ペルーへ移住したり、1才のときその航海中の船上で父親が急死するなど、人生の初期に分離不安を経験していると思われる。後年妻子を捨ててタヒチへ移住したり、自殺未遂事件を起こしたり、点々と居住地を変えたりなど、ゴーギャンの人生にはパーソナリティーの不安感、不安定さが伺えるのである。それに反して足の大きい人物像を描いているのは本研究の結果と一致しない例といえる。見方を変えれば、自己の不安をまぎらわすために南海の楽園へ逃避しているとも考えられ、大きな足の描写は不安定なパーソナリティー、自己の不安感を補償する意味で表現されていると考えることも出来る。

以上のように多くの実例は見出せなかったが世界的に有名な画家のうち、ムンク、セザンヌ、ルドン等においては、本研究での結果を支持する面が多少見られた。しかしながら、筆者の調べた画家の作品は限られており、内容の吟味も不十分であり、又、画家の個人史や伝記は必ずしも心理的側面について語られてなかったりして不十分でもあり、DAPと芸術作品としての人物像（人物画）とは異なる面もあることを方法上の問題点として付け加えておく。

文 献

- 1) Sims J, Dana R H, Bolton B: The Validity of the draw-a-person test as an anxiety measure. *Journal of Personality Assessment* 47: 250~257, 1983.
- 2) Handler L, Reyher J: Figure drawing anxiety indices: A review of the literature. *Journal of Projective Techniques & Personality Assessment* 29: 305~313, 1965.

- 3) Machover K : Personality Projection in the drawing of the human figure. C C Thomas, 1949. 深田尚彦訳：人物画への性格投影，第4刷 黎明書房，名古屋，1979.
- 4) Koppitz E M : Psychological evaluation of children's human figure drawings. Grune & Stratton, 1968. 古賀行義監訳：子どもの人物画……その心理学的評価，第2刷，建帛社，東京，1977.
- 5) Handler L : Anxiety indices in the Draw-A-Person Test : A scoring manual. Journal of Projective Techniques 31 : 46~57, 1967.
- 6) Hoyt T E, Baron M R : Anxiety indices in same-sex drawings of psychiatric patients with high and low MAS scores. Journal of Consulting Psychology 23 : 448~452, 1959.
- 7) Craddick R A, Leipold W D, Cacavas P D : The relationship of shading on the Draw-A-Person test to manifest anxiety scores. Journal of Consulting Psychology 26 : 193, 1962.
- 8) Lackmann F M, Bailey M A, Berrick M E : The relationship between manifest anxiety and clinicians' evaluation of projective test responses. Journal of Clinical Psychology 17 : 11~13, 1961.
- 9) 日本版MMP I 顕在性不安検査 (MAS) 使用手引，三京房，京都：4~5，1968.
- 10) 家族画研究会編：臨床描画研究 I ……描画テストの読み方，第2刷，金剛出版，東京：12~49，1987.
- 11) 高橋雅春：描画テスト入門……HTPテスト，第5刷，文教書院，東京：1~179，1980.
- 12) Silverstein A B : Anxiety and the quality of human figure drawings. American Journal of Mental Deficiency 70 : 607~608, 1966.
- 13) 大森淑子，矢花芙美子他：多面的HTP法における不登校症例の臨床経験，芸術療法15：39~47，1984.
- 14) 河合隼雄他編：臨床心理ケース研究，1巻~5巻，誠信書房，東京.
- 15) 藤土圭三他編：心理検査の基礎と臨床，初版，星和書店，東京：124~131，136~139，260~263，1987.
- 16) 集英社版，現代世界美術全集，1巻~25巻，集英社，東京.
- 17) Hodin J P : Edvard Munch, Thomas and Hudson, London, 1972. 漆典子訳：エドヴァルト・ムンク，第1刷，パルコ出版，東京，1986.
- 18) Polansky N A : Integrated ego psychology, Adline Publishing Company, New York : 54~57, 1982.
- 19) 東京新聞社編集：セザンヌ展，東京新聞社，1986.
- 20) Perruchot H : La vie de Cézanne, Librairie Hachette, Paris, 1956. 矢内原伊作訳：セザンヌ，初版，みすず書房，東京，1976.
- 21) 円尾安典：セザンヌ神話崩し，芸術新潮4月号：4~65，1989.
- 22) 東京国立近代美術館編集：オディロン・ルドン展—光と闇—，東京新聞社，1989.
- 23) 栗津則雄：ルドンの妖しさ，芸術新潮5月号：4~41，1989.
- 24) Chabrun J F : Goya, Aimery Somogy, Paris, 1965. 幸田礼雅訳：ゴヤの生涯，初版，美術公論社，東京，1983.
- 25) 東京国立近代美術館編集：ゴッゲン展—楽園を求めて—，東京新聞社，1987.